

県民に信頼される  
親切であたたかい病院

Iwate Prefectural Central Hospital

# 岩手県立 中央病院

岩手県立中央病院 編著

# 地域に必要とされる 病院をめざして

—救急と地域医療支援は当院のミッション—

岩手県立中央病院長 もちづき いづみ  
望月 泉



岩手県立中央病院は1933（昭和8）年5月、1890（明治23）年開業以来40有余年歴史のある私立病院の委譲を受け、有限責任購買販売利用組合盛岡病院として発足しました。1950（昭和25）年11月、「県下にあまねく医療の均霑を」という高邁な創業の精神のもとに岩手県医療局が発足、岩手県立盛岡病院として県に移管改称され、1960（昭和35）年4月、岩手県立中央病院に改称されました。

1987（昭和62）年3月、現在地に新築移転、県立病院のセンター病院として高度・先進医療に取り組むと同時に、「断らない救急」を病院のミッションとして掲げ、全診療科参加型の救急医療を行う（全科オンコール）体制をつくり上げてきました。また医師不足が深刻な地域の公的病院へ医師を派遣するとともに臨床研修指定病院として医師の養成や県内医療従事者を対象とした研修・教育にも取り組んできました。

今回、岩手県立中央病院の本を発刊するに当たり、望月泉病院長に病院の特徴、医療提供体制、今後進めていく方向について伺いました。

## —岩手県立中央病院の医療の特徴および地域における役割を教えてください—

一言でいえば、救急患者さんの積極的な受け入れで高度急性期医療を推進する中核病院です。当院は、「高度急性期医療を推進する県民に信頼される親切であたたかい病院」を基本理念としています。「急性期医療」とは、重大な病気やけがの進行を食い止め、命を救うために、発症から手術を含む高度な治療が必要な期間に集中して治療を行う医療のことです。そして、病気やけがの回復が見込めるめどを付け、ご自宅や専門医療機関、介護施設などより生活に近い場所へ、患者さんが帰れることを目的にしています。

さらに急性期高機能センター病院として岩手県全域を対象に先進・高度・特殊医療を提供する機能と、臨床研修指定病院として教育・研修機能、それに医療情報機能など全ての県立病院の中核としての役割を担っています。

岩手県には県立の病院が20、地域診療センター（無床診療所）が6施設ありますが、民間や市町村立の病院は極めて少なく、ほとんどの二次保健医療圏で県立病院が中心になって医療を行っています。当院は、20ある県立病院の「センター病院」としての役割を担っており、臨床研修指定病院として多くの研修医の応募があります。東日本大震災によって、被災した三陸沿岸地域の医師不足はますます大変な状況になりました。それらの地域を含め県内公立病院に対しての診療応援、医師派遣も大きな役割の1つです。

また、県民の命を守る「高度急性期病院」として、「24時間365日、救急車の受け入れを断らない」ことが挙げられます。そのため、全診療科がオンコール体制で、毎晩7～9人と多くの医師が救急当直をしています。年間の救急車受け入れ件数は6400件にのぼり、盛岡保健医療圏救急車出動回数の約半数を当院が引き受けていることとなります。

## ——県全体の地域医療を支える医師派遣と女性医師の働く環境の整備を積極的に推進

高度な医療を実現するには、人材の確保が欠かせません。当院では、女性医師の積極的な雇用を推進しています。医師国家試験の合格者の30%は女性ですが、結婚・出産を経験して現場を離れる方が多い現状があります。しかし、働く環境を整備すれば、女性医師が医療現場で働き続けることが可能になります。ライフワークに合わせた時短勤務などの制度を積極的に導入し、家庭や育児と仕事を両立しやすい環境をつくり、女性医師が活躍できる職場を創出しています。

岩手県は広大な県土に、人口が比較的多い地域と全くの過疎地域が混在しており、医師の絶対数が不足している上に沿岸、県北地域を筆頭に偏在が著明です。人口10万人当たりの医師数は全国平均が233.6人（2014〈平成26〉年12月現在）に対し、岩手県は192.0人、さらに沿岸、県北地域は120人程度と全国平均の半数程度の医師しかいないことになり、厳しい医師不足となっています。2014年度の診療応援回数は年間3335回となり、医師不足の県内公的病院に後期研修医（レジデント）、各科専門医を派遣しました。1日平均9人の医師が診療応援のために不在となる計算です。医師の少ない地域の県立・市町村立病院へ医師を派遣し、県全体の地域医療を支え続けています。

## ——病院完結型医療から地域完結型医療へ

地域包括ケアの構築、病院完結型医療から地域完結型医療へ転換を進めていく必要があります。高齢者の看取り、在宅医療を視野に入れたシームレスな地域包括ケアの構築です。高齢社会を迎えて、介護保険を利用する患者さんが増える中で、患者さんが退院後に安心して生活に戻るために、

その患者さんを担当するケアマネージャーと病院との連携が重要になります。現在、要介護の患者さんが病院に入院するときに、患者情報をケアマネージャーに詳細に伝え、退院後の自宅や施設での療養をスムーズにする仕組みづくりに取り組んでいます。さらに、地域の診療所（かかりつけ医）との連携も非常に大切で、地域医療福祉連携室が、患者さんのスムーズな受診予約を実現しています。また、診療情報の共有によって確実な診察と治療を行うなどの連携の取り組みを、地域医療福祉連携室を中心に行っています。

## ——今後の取り組みと課題について

医療の質と経営の質は車の両輪です。経営状況は累積欠損金が1998年にピークとなる大きな欠損金をかかえていましたが、目標を定め全職員が同じ方向を向き、トップダウンとボトムアップの手法で種々の業務改善に取り組み、黒字転換しました。今後の当院の2大テーマは、1つは地域包括連携の構築、病院完結型医療から地域完結型医療への転換です。また、すぐ近くにある岩手医科大学附属病院が矢巾地区に移転することが2019年5月に予定されています。盛岡保健医療圏としての入院体制、通年使用できるヘリポートの整備などを含めた救急医療体制の整備が急がれます。

当院のミッションは医の倫理を踏まえ、高度急性期医療の推進と県民に信頼される親切であたたかい病院をめざすことです。高度医療、救急医療、地域医療支援、研修医教育、健全経営が5本柱です。職員一丸となりこの理念を達成できるよう努力する所存です。今後も医療の質と経営の質のDouble Winnerを実現して、地域住民が必要とし、県民にとってなくてはならない岩手県立中央病院であり続けたいと願っています。

2016年5月